釧路工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	機械工学分野	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	テキスト：自主教材　　参考書：1．英検準2級全問題集（旺文社）　2．出る順パス単英検準2級（旺文社）　3．英検準2級文で覚える単熟語〔三訂版〕（旺文社）		
担当教員	片岡 務		

到達目標

英語検定準2級の試験問題に対応できる英語力（語彙、読解、作文、リスニングに関する能力）を身につけることで、論理的な文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行えるようになるための基本的かつ充実した英語力を　習得し、それを随時発揮できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	英語検定準2級レベルの問題をほぼすべて正解できる	英語検定準2級レベルの問題を6割以上正解できる	英語検定準2級レベルの問題を４割以下しか正解できない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 F

教育方法等

概要	英語検定準2級の試験問題に対応できる英語力（語彙、読解、作文、リスニングに関する能力）を身につけることで、論理的な文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行えるようになるための基本的な英語力の充実を目指す。 ・前関連科目：1年英語　・後関連科目：３年英語
授業の進め方・方法	毎授業、英語検定準2級レベルの語彙に関する問題、読解に関する問題、作文に関する問題、などを配した自主教材の設問を各自で解いてきて、解答解説を受けることで、語彙力、読解力、作文力の向上を図る。また適宜リスニングの問題を授業中に課すことでリスニング力の向上も図る。なお、10月には全員が「英語検定準2級」の試験を受験することになっているので、授業では適宜それに合格するためのアドバイス等も与える。 評価については、定期試験の得点がそのまま本授業の合否判定用の評価となる。ただし、「英語」の評価で60点以上の学生に対しては、授業への参加姿勢の観点で、本授業の評価点に±５点を加減算して本授業の最終評価とする。なお、「英語」の成績評価方法と再試験については以下の通りである。 　○２年生の「英語」の評価方法について ・ 山本、ローズ、片岡のそれぞれの合否判定用成績を２：２：１の割合で乗じてその合計点を5で割った点数を60%、単語テストの成績の平均点を20%、英検テストの成績の平均点を20%として、その合計点を出し、その合計点に0.8を乗じて、それに「英語検定準２級の判定点（合格〔２級以上合格も含む〕：20点、１次合格：17 点、１次不合格で正答数39以上：14点、正答数27～38：10点、正答数26以下：０点）」を加える。ここまでの総合点Ｐを算出する数式は次の通りである。ｐ＝｛(y×2+r×2+t)×1/5×0.6＋Wt×0.2＋Et×0.2｝×0.8＋英語検定準２級の判定点（y, r, k はそれぞれ山本、ローズ、片岡の合否判定用成績、Wtは単語テストの成績〔100点満点に換算〕の平均点、Etは英検テストの平均点）この総合点Ｐを、さらに以下の「ｅラーニングで身につける中級英語〔前編〕」の進捗状況によるパターンの数式に当てはめて算出した数値を「英語」の合否判定用成績とする。 ＊「ｅラーニングで身につける中級英語〔前編〕」の進捗状況によるによるパターンは以下の通りである。 ・パターンａ：本科Lesson8までの中で学習を完了していないレッスンがある場合 ・パターンｂ：本科Lesson8までは完了しているけれど、復習Lesson 5，6，7までの中で学習を完了していないレッスンがある場合 ・パターンｃ：復習Lesson 5，6，7までは完了しているけれど、ディクテーションの中で学習を完了していないレッスンがある場合 ・パターンｄ：すべてのレッスンの学習を完了している場合 ＊上記の各パターンごとに、以下の数式で「英語」の合否判定用成績（ｔ）を算出する。 ・パターンａ：ｔ＝ｐ－（ｐ－60）×0.24 ・パターンｂ：ｔ＝ｐ＋（100－ｐ）×0.08－（ｐ－60）×0.16 ・パターンｃ：ｔ＝ｐ＋（100―ｐ）×0.16－（ｐ－60）×0.08 ・パターンｄ：ｔ＝ｐ＋（100－ｐ）×0.24 （ただし、pが60点未満の場合には（p-60）を（60-p）と読み替えてｔを算出した上で、pかｔの高い方の点数を総合成績とする。） 最終評価は、合否判定用成績が 60点以上になった場合に、上記の数式にy, r, kに山本、ローズ、片岡の最終評価を入れて上記の計算式で算出したｔの数値となる。 ○「英語」の再試験について １．「英語」の評価で合格点に達しなかったものを対象に、山本、ローズ、片岡の3人のそれぞれが再試験を実施する。ただし、受験するのは定期試験の平均点が60点未満だった教員の再試験だけである。 ２．再試験で合格となるためには、以下のいずれかに該当しなければならない。 ① y′, r′, k′ をそれぞれ山本、ローズ、片岡の再試験の得点（再試験を受けない場合には定期試験の平均点）とした場合、次の式が　60点以上になった場合。　(y'×2＋r'×２＋k')×1/5 （3人の定期試験の平均点がいずれも60点を上回っている場合には再試験ではなく、片岡の課す課題の提出をもって合否を判断する。） ② 上記の合否判定用成績算出の計算式の定期試験の得点のところに、再試験の得点（再試験を受けない場合には定期試験の平均点）を置き換えて算出した成績が60点以上になった場合。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	自主教材１	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		3週	自主教材２	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		4週	自主教材３	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		5週	自主教材４	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		6週	自主教材５	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる

		7週	自主教材６	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		8週	前期中間試験を実施する	
	2ndQ	9週	自主教材７	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		10週	自主教材８	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		11週	自主教材９	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		12週	自主教材１０	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		13週	自主教材１１	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		14週	自主教材１２	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		15週	自主教材１３	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		16週	前期期末試験を実施する	
後期	3rdQ	1週	自主教材１４	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		2週	自主教材１５	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		3週	自主教材１６	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		4週	自主教材１７	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		5週	自主教材１８	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		6週	自主教材１９	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		7週	自主教材２０	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		8週	後期中間試験を実施する	
	4thQ	9週	自主教材２１	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		10週	自主教材２２	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		11週	自主教材２３	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		12週	自主教材２４	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		13週	自主教材２５	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		14週	自主教材２６	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		15週	自主教材２７	各設問の意図を理解し、適切に正解を導くことができる
		16週	後期期末試験を実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	１００%	0	0	±５%（加減）	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0